

第2学年2組国語科学習指導案

平成18年1月7日(火)第1校時
指導者 丸山小学校 教諭 滝澤 恵美

1 単元名

様子を考えて読もう 「お手紙」

2 単元の目標

「だれが・どうした」に気を付けて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりすることができる。

登場人物の気持ちを想像することを楽しみ、進んで友達と伝え合うことができる。

3 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
・登場人物の気持ちになって、書いたり、音読したりしようとしている。(音読・ワークシート)	・場面の様子やがまくん、かえるくんの気持ちを想像しながら読む。(音読・発言) ・がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語と語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読む。(音読)	・主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりする。(発言・ワークシート)

4 単元と児童

(1) 単元について

友情をテーマにした童話である。身近な動物が人間のようにお話をする会話文が多く、登場人物の気持ちを想像しやすいだろう。場面ごとの気持ちの移り変わりを読みながら、悲しんだり喜んだりする姿に共感し、ひきつけられる単元である。

(2) 児童について

昨年からのもち上がり男子18名、女子14名、合計32名のクラスである。1年生の2月実施のNRTでは、国語科の偏差値平均は、51.3、領域別では4領域中「話す・聞く」の全国比が96と最も低いが、全体的には全国平均並みのクラスと言える。

【標準得点】

段階	%
1	9
2	19
3	25
4	41
5	6

【大領域別の全国比】

内容	全国比
話す・聞く	96
書くこと	100
読むこと	121
言語事項	104

【中領域別の全国比】

内容	全国比
順序を考えながら大体を読むこと	147
場面を想像しながら読むこと	87
内容を考えながら音読すること	93

4領域の中では、読むことの全国比は121と最も高い。中領域を分析すると、順序を考えながら大体を読むことが147と極めて高いのに対して、場面を想像しながら読むことは87、内容を考えながら音読することは93と開きがある。

これまで「叙述に即して正確に読むこと」をねらいとしてきた。教師の読み聞かせが正しい叙述かどうかを楽しみながら確認する、アニメーションゲームの「ダウトを探せ」や教師の問いについて文章から答えを見付けるクイズ形式の「一字読解」を継続して行ってきた。その結果、問いの答えを文章から見付ける力は身に付いてきた。しかし、文章から場面の様子や登場人物の気持ちを想像する力がやや弱い。市販のワークテストでも場面の様子や登場人物の気持ちを問う問題の正答率が低い。

(3) 「読むこと」の学習について

4月「ふきのとう」では、子どもたちが文章を読んだ後、ふきのとうがどんなことを話しているかなと投げかけ、音読を繰り返させた。学習のまとめとして、自作の挿絵に想像したふきのとうの言葉を

書いた。7月「スイミー」では、ワークシートを使用し、場面から想像した自分の考えを書き、友だちと交流した。その後、レオ・レオニの作品を多読し、登場人物の把握とお気に入りの場面を見付ける読みを学習した。9月「サンゴの海の生きものたち」では、一人読みの窓口を提示し、叙述から気付いた自分の思いを書きこむ学習をした。現在では、積極的に本文を読み、想像したり理解したりしようとする自力読みの姿勢が育ってきている。本単元では読み方のキーワードに沿って読み、叙述と結び付けて気持ちを想像することで「読み方のキーワードで読むと登場人物の気持ちや様子がよく分かる」という読み方を身に付けさせたい。

5 指導の構想

学習内容を蓄積することで足跡を残す

登場人物になりきって場面ごとの気持ちを想像して書いたり、学習した「読み方のキーワード」を書いたりするワークシートを用いる。毎時間のワークシートを蓄積することで学習の足跡を残すことができ、次時以降の学習でも使える読み方のキーワードを一目で振り返ることもできる。ワークシートの蓄積の形として、絵本作りの体裁をとる。国語のポートフォリオとも言える。単元の終末に、この絵本を用いて1年生に読み聞かせをする活動を位置づける。これまでに子どもたちは、「スイミー」と「サンゴの海の生きものたち」でマイ・ブック作りを経験していて、今回で3回目となる。

今回取り上げる読み方のキーワードは、次の3つである。

(1) 行動の理由を考える。

行動の理由を検討することで、登場人物の気持ちを想像することができる。

(2) 相手の気持ちを考える。

対役の気持ちを想像することで、主人公の気持ちをより明確に想像することができる。

(3) 最初と最後を比べる。

最初と最後の場面を比べて読むことで、登場人物の気持ちの変化を確認することができる。

場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る活動を活性化させるための手だて

「ダウトを探せ」(アニメーション的導入)

何がどのように叙述されているかを注意深く読み取る手だてとして「ダウトを探せ」を行う。授業の導入場面で行うことで、子どもたちの音読に文章を正しく読むというめあてをもたせ、場面設定やあらすじを捉えさせる。また、全員を楽しく授業に参加させるための手だてでもある。

*「読書へのアニメーション」とは、スペインのモンセラット・サルトラが開発した読書教育メソッドである。「ダウトを探せ」は、教師が意図的に読み間違える読み聞かせを聞き、間違いを指摘するゲームである。

複数の立場から考えさせる発問の設定

低学年の物語教材においては、主人公の視点から語られるものが多い。しかし、本教材はがまくんとかえるくんの2つの視点から読むことで読みを深めることができる。主人公がまくんだけでなく、かえるくんの言動にも注意して読むことで、複数の視点から読む読み方とその意義を学習させる。

インタビュータイム

インタビュータイムとは、全員が意見を発表する機会を保障する時間である。この活動を取り入れることにより、登場人物の気持ちを想像し、それについて自信をもって発表したり、友達の想像したことを聞いて色々な考えに触れたりすることもできる。自分が想像したことを実際に話すことを通して、登場人物の行動の意味や気持ちに迫らせたい。

6 指導と評価の計画 (11時間)

時間	ねらい ・主な学習活動	評価基準(B) 【評価方法】	評価の観点				十分満足できる (A)	努力を要する児童 (C)への指導
			関	書	読	言		
1	「お手紙」の読み聞かせを聞き、関心をもつ。 ・全文を読み、登場人物やあ	・登場人物をワークシートに書いている。 ・読みの窓口から感想を					登場人物の3人に気付き、感想を書く。 一人読みでたくさん	教材文と一緒に読み、登場人物に印をつける。

	<p>らすじをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもつ。 ・一人読みをし、読みの窓口から書きこみをする。(随時) 	<p>書いている。</p>				<p>の書きこみをしている。</p>	
2	<p>会話文に着目し、誰の会話文であるか考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰の会話が確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくん(緑)・がまくん(茶)かたつむりくん(黄)で会話文にシールを付けている。 				<p>誰の会話文であるか根拠をもって決めることができる。</p>	<p>隣の友達と相談しながら考える。</p>
3	<p>< 1の場面 ></p> <p>手紙をもらえないがまくんの気持ちを会話文から読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんとかえるくんのさみしい気持ちの違いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんとかえるくんのさみしい気持ちや様子が分かる。 <p>読み方のキーワード(1)</p> <p>行動の理由を考える</p>				<p>がまくんに同情しているかえるくんの気持ちを想像して書くことができる。</p>	<p>かえるくんに手紙がこないわけではないことを理解させる。</p>
4	<p>< 2の場面 ></p> <p>かえるくんの行動を順序よく読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序よく読み取る。 ・かたつむりくんに頼んだ理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんを思って行動するかえるくんの気持ちが分かる。 <p>読み方のキーワード(1)</p> <p>行動の理由を考える</p>				<p>様子が分かるようにテンポよく声に出して読むことができる。</p>	<p>かえるくんの行動が分かるところに線を引かせる。</p>
5	<p>< 3の場面 ></p> <p>二人の会話を対比して、それぞれの気持ちを想像することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんが待ちくたびれている様子を理解し、はげます手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんとかえるくんの対照的な気持ちの違いが分かる。 <p>読み方のキーワード(2)</p> <p>相手の気持ちを考える</p>				<p>あきらめているがまくんと勇気づけようとするかえるくんの立場を想像して書くことができる。</p>	<p>がまくんが待ちくたびれている会話文に着目させる。</p>
6	<p>本時</p> <p>< 4の場面 ></p> <p>がまくんを思うかえるくんの気持ちやそれを聞いたがまくんの気持ちを想像し、表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙のことを聞いて喜ぶがまくんの心情の変化を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんが「自分がお手紙を書いた」という秘密を打ち明けた理由と、秘密を知ったがまくんの気持ちを想像し、ワークシートに書くことができる。 <p>読み方のキーワード(1)</p> <p>行動の理由を考える</p> <p>読み方のキーワード(2)</p> <p>相手の気持ちを考える</p>				<p>かえるくんがお手紙を書いた理由や秘密を知ったがまくんの気持ちの中に、「親友」というニュアンスを入れて書くことができる。</p>	<p>かえるくんのやさしさが分かる会話文に着目させ、がまくんがどう考えたか想像させる。</p>
7	<p>< 5の場面 ></p> <p>1の場面と比べて2人の様子の違いを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵をもとに様子の違いや気持ちの変化を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように変化したのか理解している。 <p>読み方のキーワード(3)</p> <p>最初と最後を比べる</p>				<p>1の場面と比べて2人の様子の違いを想像して書くことができる。</p>	<p>挿絵の表情や姿勢に着目させて、気持ちを想像させる。</p>
8	<p>気持ちが表れるように音読することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに役割を決めて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や人物の気持ちを想像したことを生かして音読している。 				<p>登場人物になりきって想像力豊かに音読することができる。</p>	<p>聞き取りをして、間違えたところを繰り返し練習させる。</p>

9	読み方のキーワードの確認をしながら、振り返る。 ・どちらの人物が好きか答えるために通読し、手紙を書く。	・読み方のキーワードが分かる。				登場人物の人柄に共感した手紙を書くことができる。	今までのワークシートを読ませる。
10 11	同じ作者の作品に親しむ。 ・アーノルド＝ローベルの他の作品を読んだり、読書記録を書いたりする。	・感想を読書記録に書くことができる。				読み方のキーワードで読み、登場人物の気持ちや様子について感想を書くことができる。	一緒に絵本を読み、登場人物を確認する。

7 本時の学習（6 / 11）

（1）本時のねらい

がまくんを思うかえるくんの気持ちやそれを聞いたがまくんの気持ちを想像し、表現することができる。

（2）本時の評価規準

かえるくんが「自分がお手紙を書いた」という秘密を打ち明けた理由と、秘密を知ったがまくんの気持ちを想像し、ワークシートに書くことができる。

（3）本時の指導の構想

「ダウトを探せ」(アニメーション的導入)

最初は「すらすらと正しく読むこと」をめあてに児童が音読する。その後、場面設定や登場人物の気持ちに関わる文章表現を意図的に教師が間違える音読をし、子どもが教材文の正しい叙述に気づくようにする。間違えるポイントは、かえるくんの真剣さが分かる叙述に着目させる箇所とする。がまくんとかえるくんは、親友であるということをおさえ、中心発問へとつなげていきたい。

複数の立場から考えさせる発問とインタビュータイム

4の場面は、がまくんとかえるくんの心情が大きく変化する場面である。まず、かえるくんが秘密を打ち明けた行動の理由に着目させる。読み方のキーワードは（1）行動の理由を考える。次に、秘密を知ったがまくんの気持ちを想像する。読みのキーワード（2）相手の気持ちを考える。を使う。かえるくんのがまくんを思う真剣な気持ちを理解してこそ、がまくんの気持ちを考えることができるからである。その上で、がまくんの言葉「『きみが。』と『ああ。』『いいお手紙だ。』」から、うれしい気持ちに変化したことをおさえる。

また、インタビュータイムは児童が話しやすい3人の相手を決めて行う。教師は相手探しに戸惑っている児童の相手をしたりペア探しの声かけをしたりと、児童の実態に応じて配慮する。

なお、指導書では5の場面となっている「『ああ。』がまくんが言いました。『とてもいいお手紙だ。』」の部分は、本時でねらう「がまくんとかえるくんの2人の視点を通して、両者の気持ちを想像する」を達成するために4の場面として扱う。

（4）本時の展開と評価

時間	学習内容・活動	教師の働きかけと児童の反応（ ）	指導上の留意点と評価（ ）
8分	4の場面を音読する。 叙述に則して、正しく読み取る。	すらすら読みで1回読みましょう。 ダウトをします。（答え：正 誤） L 2 ずっと 時々 L 1 0 きっと たぶん L 1 2 ぼくが かたつむりくんが L 1 4 きみが えっ、そうなの L 1 9 親愛なる 友達のいない	・1回読んだ後、着席して音読を続ける。 ・音読したりゲームの要素を取り入れたりすることで学習意欲を引き出す。 ・「ダウトを探せ」をしながら、言葉の意味や場面設定をおさえる。 ・がまくんの真剣さに気付くような間違いを設定する。

		<p>L 2 0 親友 友達 L 2 1 うれしく かなしく L 2 3 ああ ふーん L 2 5 いい 嫌な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親友と友達の意味の違いを理解させる。
20分	<p>かえるくんの気持ちを想像する。</p> <p>インタビュータイム</p> <p>全体発表をする。</p>	<p>課題 かえるくんとがまくんの気持ちを想像しよう。</p> <p>かえるくんが秘密を言ったのは、どうしてだと思いますか。その理由を想像してワークシートに書きましょう。読み方のキーワード(1)</p> <p>がまくんが手紙の来ることを信じないから親友のがまくんに手紙が来ることを信じてほしいから 親友のがまくんに元気を出してほしいから</p> <p>インタビュータイムをします。友達3人とインタビューしましょう。 友達の考えを聞いてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3の場面とのつながりを想起させてから発問する。 ・発問を黒板に提示する。 ・想像した理由をワークシートに書かせる。 ・自分の考えの根拠となる叙述に線を引いたら引くように促す。 ・がまくんがあきらめていることに気づかせ、考えさせる。【C児への手だて】 <p>かえるくんが「手紙を書いたという秘密」を打ち明けた理由を想像し、ワークシートに書くことができる。【ワークシート】</p>
12分	<p>がまくんの気持ちを想像する。</p> <p>全体発表をする。</p> <p>がまくんのうれしい気持ちが分かる会話を見付ける。</p>	<p>かえるくんの話を聞いたがまくんの気持ちを想像してワークシートに書きましょう。読み方のキーワード(2)</p> <p>かえるくんが手紙を出してくれてうれしい。 かえるくん、ありがとう。やったー。 かえるくんは本当の友達だ。 想像したがまくんの気持ちを発表しましょう。</p> <p>4の場面のがまくんは、どんな気持ちになりましたか。簡単に言いましょう。 うれしい気持ち</p> <p>がまくんがうれしい気持ちになったのが分かる会話はどれですか。 「きみが。」 「ああ。」 「いいお手紙だ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を黒板に提示する。 ・想像した気持ちをワークシートに書かせる。 ・早く終わった子は、インタビュータイムをする。 ・かえるくんのやさしさが分かる会話文に着目させ、がまくんがどう考えたか想像させる。【C児への手だて】 <p>かえるくんの話を聞いた後のがまくんの気持ちを想像し、ワークシートに書くことができる。【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きみが。」「ああ。」「いいお手紙だ。」で分かれることが予想される。 ・その場合は、「うれしい」と続けて読ませることで、受ける印象の違いに気付かせる。 ・「きみが。」は驚きである、を教師の解とする。 ・「ああ。」「いいお手紙だ。」のどちらも可だが、どちらを早く言ったかについて着目させ、「ああ。」を教師の解とする。
5分	<p>読み方のキーワードの確認をする。</p>	<p>今日使った読み方のキーワードと自分の学びを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み方のキーワードを自分の学びとして振り返らせる。これを蓄積することで学習の足跡を残す。

「お手紙」実践の成果と課題

新潟市立 丸山小学校 滝澤恵美

1 成果

(1) アニメシオンの導入「ダウトを探せ」

ほぼ全員の子どもたちが進んで挙手をし、意欲的にダウトを指摘しようとしていた。その理由は、ゲーム的な感覚があり、全員を引き込むことができるからであると分析する。担任がねらいとした、導入場面においてあらすじや場面設定を捉える手だてとして有効であった。本単元では、指摘させたいダウトとして、あらすじに関する内容と語句に関する内容を混ぜた。ダウトを指摘するだけでなく、自分なりの言葉で理由を説明することができる子どもも育ってきている。

ただし、ダウト開始前の音読については、全文を取り上げた方がよい。場面ごとの指導でも、必ず前の場面や後の場面とのつながりからも考えさせる必要があるからである。

(2) 学習内容を蓄積することで足跡を残す

一人読みでの自分の感想や授業中に考えた吹き出し、学習した読み方のキーワードが書き込まれた場面ごとのワークシートを読み返すと、学習した内容を一目で振り返ることができる。また、教師も子どもたちの発言だけでは見取りきれない学びを見取ることができる。毎回、学習したキーワードを記入させ、分かった内容を書かせたことも自覚化につながっている。

2 課題

(1) パターン化の善し悪し

低学年は、同じような学習を繰り返す中で学習方法が分かったり、前より自信をもって授業に参加したりすることができるようになる。そこで、本単元も スラスラ読み ダウトを探せ 主発問 インタビュータイム 全体発表 補助発問 インタビュータイム 全体発表 読み方のキーワードからの自己評価記入、の流れを基本として授業を行った。

しかし、子どもたちは同じ展開をするうちにマンネリを感じるようになった。そこで、本時は少し変化を与えようと、補助発問「がまくんの気持ちがうれしい気持ちになったのが分かる会話文はどれか。」の答えを選択制にし、話し合いをすることにした。その結果、子どもたちが新鮮な気持ちで考えようとする姿が見られた。その際に心情曲線を用いたならば、気持ちの変化を視覚的に捉えさせ、より深い思考が得られさせることができたのではないかと考える。

(2) 読み方のキーワードの再検討

今回提示した、行動の理由を考える、と 最初と最後の場面を比べるは、はっきりとしていてキーワードとして妥当だったと考える。その証拠に、多読後の感想もキーワード からの記述は多かった。それに比べて の相手の気持ちを考えるが非常に曖昧だった。気持ちを想像するためのキーワードであるので、ずばり気持ちを問うてはいけないと感じた。

(3) インタビュータイムの再検討

インタビュータイムは、友達同士で自分の書いたことを発表し合う活動にとどまっていた。吹き出しへの記入は全員ができたが、内容を評価するとC児も多かった。このC児が考え直すことができれば、インタビュータイムが有効に機能していたと言えるが、今回は考えの比較・検討までは至らなかった。また、全体発表も大多数のA・B児童の意見を集約する形になったが、不適切なのはなぜかを考えさせる活動が必要であったと考える。

<吹き出しの評価>

行動の理由を考える 「かえるくんが秘密を言った理由は？」	A がまくんの気持ち・理由 21人(66%)	B 理由 2人(6%)	C 不適切な内容である 9人(28%)
相手の気持ちを考える 「ひみつを知ったがまくんの気持ちは？」	Aかえるくんのやさしさ・気持ち 10人(31%)	B 気持ち 17人(53%)	C 不適切な内容である 5人(16%)